

# 医療分野におけるデータ利活用の取組

---

令和 3 年 2 月 9 日

事務局

# 学校法人慈恵大学及び(株)アルムによる魅力あるデータを創るPHR二次利用基盤事業

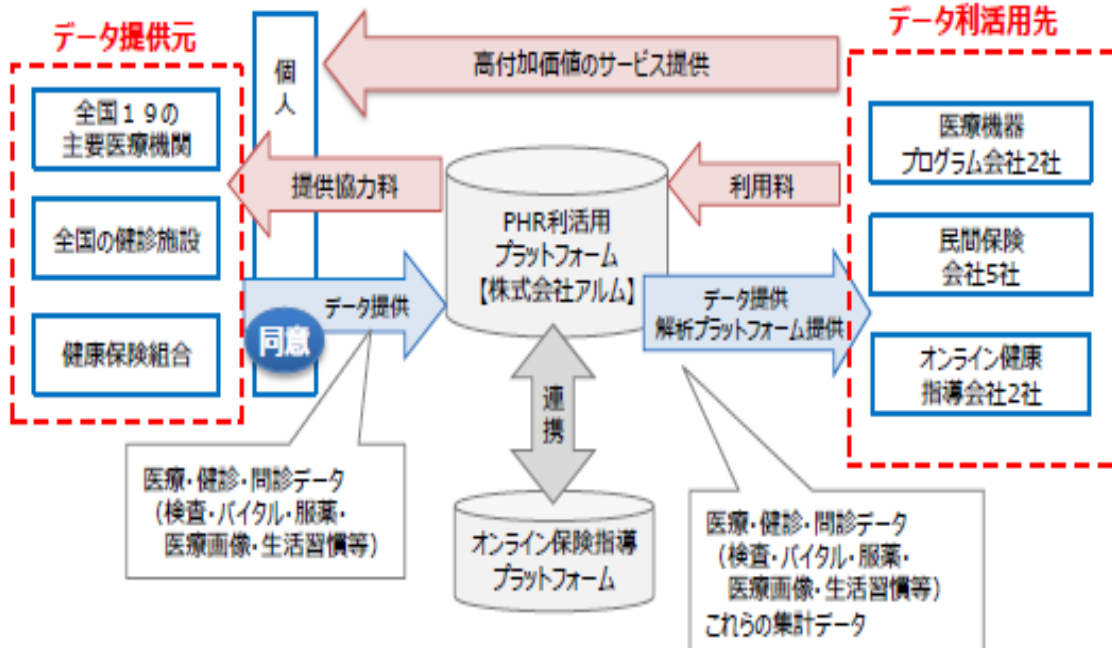
## 事業概要

医療機関に保管されている医療データや個人の持つウェアラブルデータを、パーソナルヘルスレコード（PHR）として統合し、データ二次利用のためのデータ提供をおこなう。PHRデータの一部は要配慮個人情報となるため、二次利用にあたっては匿名化や個人同意、統計処理など適切な情報提供のあり方を、活用と規制の両面から検討する。PHRデータ二次利用を行う事業者としては、民間保険会社、大学、AI開発を行うソフトウェアメーカー、医薬品・医療機器メーカー等ヘルスケア業界を中心とし、既存サービスの改善や新規サービスの創出を行う。

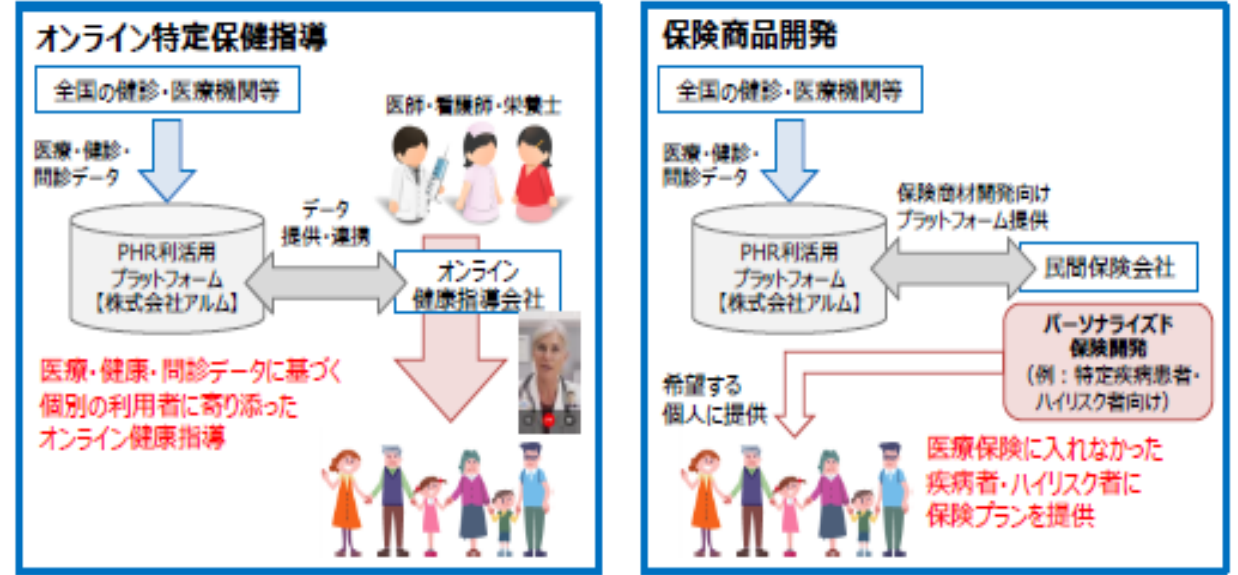
本事業によりこれまでデータの種類ごとに分散して保存されていた各データを、個人が持ち歩くスマホを使って統合した多面的なPHRデータとすることで、製品開発等の二次利用における活用可能性が広がる。また、二次利用データにより開発されたサービスは顧客の細かなニーズに対応した形となるため、結果的に個人が得られるサービスの質が向上する。

## 事業モデル

全国の病院・健診施設・健康組合からデータを収集し、用途に応じて個人同意取得・匿名化を行ったうえで、二次利用先の医療機器開発、民間保険、オンライン健康指導を行う事業者に提供するプラットフォーム事業



## データ利用イメージ



## 本事業での実施事項

- PHRに関するデータの標準化、ガイドラインの整備
- PHR利用者から二次利用同意を取得するためのインターフェイス整備
- 公共性を担保するデータ開示プラットフォームの構築
- セキュリティに関する調査・実装
- 20医療機関・健診施設へのPHR基盤構築
- PHR利活用プラットフォームの臨床での応用
- PHRデータ応用可能性の分析
- PHRデータ二次利用利活用モデルの実証

## 期待効果

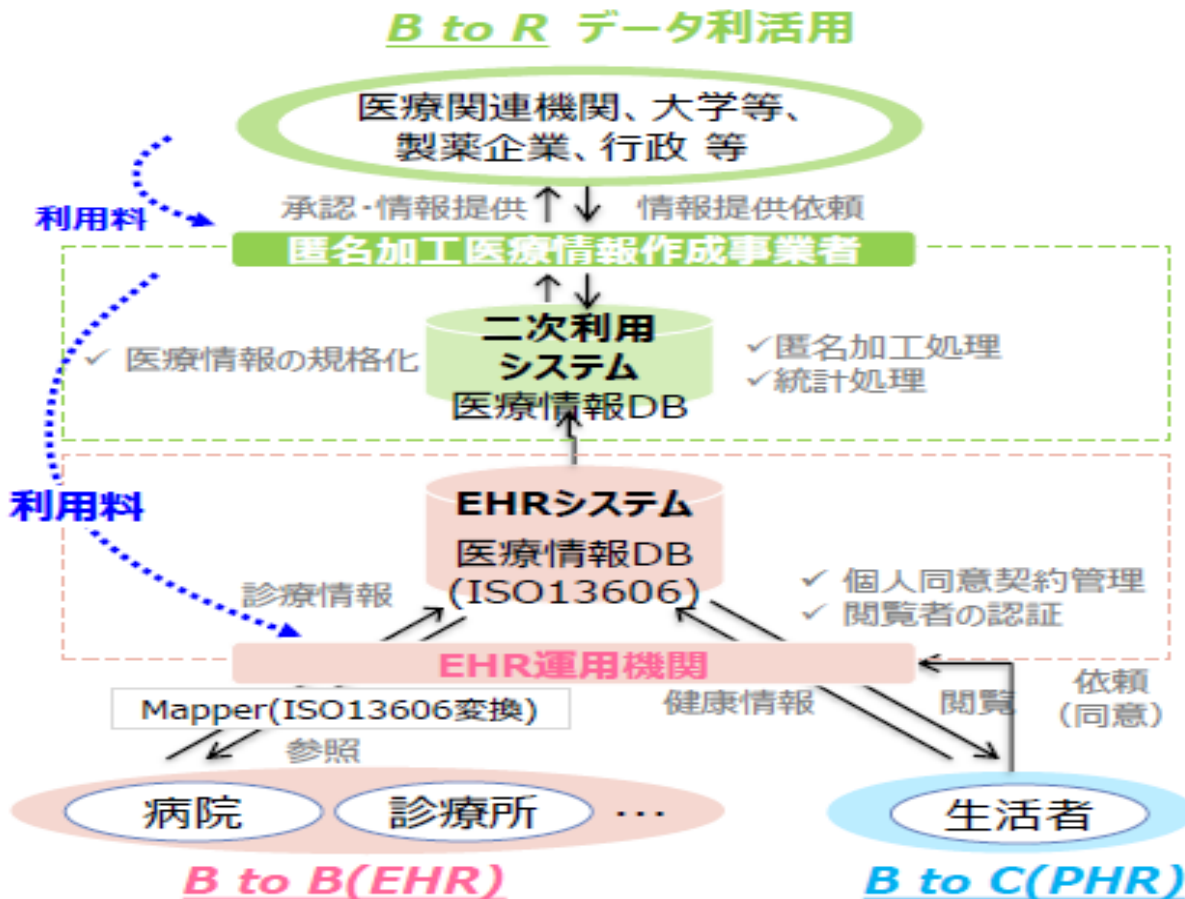
- PHRデータの民間での活用環境が広がり、個別化サービス・商品開発の活性化
- 医療連携型オンライン特定保健指導サービスの登場で特定保健指導受診率の向上
- 特定疾病者向け保険商品の登場
- 未病領域の健康改善型保険商品の登場
- プラットフォームの応用により、
  - ✓ 医薬品・医療機器等に関する最適な情報提供ツールの登場
  - ✓ 医療機器の稼働監視・在庫管理によるメンテナンスコストの最適化
  - ✓ 患者アクセスの向上により臨床研究・治験の促進
  - ✓ 遠隔診断やAIによる診断に対するアクセス向上



## 千年カルテプロジェクトの概要

千年カルテプロジェクト(以下PJ)は、参加医療施設や患者にEHR機能等による付加価値を提供した上で、医療情報利活用を促進し、EHRの運用を含め自立採算で継続する仕組みを目指しています。

### 事業全体像



### サービス機能

#### A. 災害に備えたバックアップ

万が一の災害等に備え、遠隔保存と緊急時の自院の情報を閲覧する機能を提供

#### B. 医療施設間情報連携 (EHRサービス)

連携医療施設間の患者様の過去の診療状況、検査値などの情報を閲覧する機能を提供

#### C. 患者への情報提供 (PHRサービス)

患者様の申込みにより本人の治療/健康に関する情報を提供

#### D. 情報セキュリティ機能 (医師/患者のアクセス権)

・自院の情報開示範囲 (診療科/患者) 毎の設定、医師/情報管理者単位でのアクセス権設定、グループ施設の一括設定

〔現在、企画・検討中のサービス機能〕

#### E. 治療に役立つ情報提供

- ・学会情報連携サービス
- ・検査値の異常値を検知し医療施設、患者への情報通知
- ・専門医による画像診断サポート

#### F. 医療施設への高付加価値事業

- ・電子カルテと連動した治験業務支援
- ・経営指標などの分析レポートの提供
- ・研究者に対する臨床研究支援

#### G. 医療情報利活用の推進

- ・「医療分野の研究開発に資するための匿名加工医療情報に関する法律」にもとづき研究機関や製薬企業の医療情報分析を支援

二次利用